

町づくりの重点施策

1. 財政を見直し、自主財源をつくりだす

財政を圧迫している要因のうち、過去の公共施設については根本的に見直す時期にきています。

3年間で1億円の赤字を出している美術館をクラフトパークの多機能化の中で見直し、他施設（一例：メモリアル施設など）へ転用することを検討し

ます。また、創造館、福祉会館などの公共施設も効果的な活用への工夫が必要です。

その際、単に改廃すればよいというのではなく、池田町の財産として商工業に貢献できる施設とし、自主財源を生み出す観点が必要です。

2. 自然の恵みを活用し、食料・エネルギー自給の町へ

安全な食料と、原発にたよらないエネルギーが求められる時代です。池田町の資源を最大限に活かすために、町と町民出資による農林業・エネルギー振興のための「事業体（第4セクターなど）」を創設し、意欲ある若者の受け皿とします。

3部門を設け、全国の進んだ経験に学びます。

農業部門では、町のブランド野菜の開発や認定、堆肥製造、就農支援、後継者育成を。

林業部門では、森林の保全・整備、間伐材の活用、森林浴空間・自然公園の創成、後継者育成を。

エネルギー部門では、太陽光、小水力など自然エネルギーの開発・促進を。

3. クラフト・パーク、ハーブセンターエリアの再開発

クラフトパークを含む東山一帯を「花とみどり」のエリアとして、総合的に整備・充実します。

他施設への転用を視野に美術館を見直し、クラフトパークの多機能化をはかります。

ハーブセンターのエリアは、池田町の農業、商業と観光の中心として総合的に整備します。

その際、ハーブセンターは池田町物産館とし、道の駅の中心施設として充実させ、近くにJAと共同で農産物直売所を設置、集客をはかります。

観光については、自然景観だけではなく、町の文化財の紹介、物産、加工食品の紹介などを重視、観光施策の質を高めます。

4. 街中エリアの総合整備計画の作成と実行

安曇総合病院、公民館、役場、図書館などの街中にある中心施設を軸に、街中エリアの総合的な再整備計画をつくり、計画的に実行に移します。

建て替え時期を迎えている公民館については、図書館、美術品展示場を含む総合型施設とし、住民、行政、専門家による十分な検討を経て建設にとりか

ります。このため計画的積み立てを行います。

商店街については、街中エリアの再整備と結合して、空き店舗の活用、駐車場や休憩施設の整備、樹木・道路などの修景にとりくみます。

同時に、街中に町民が安心して集まれるように工夫し、活気を呼び戻します。

5. 行財政改革の実施と町民総意による「町づくり基本条例」の制定

累積債務をできるだけ早く償還し、町独自の福祉・教育政策が実施できるようにします。また、将来必要になる公共施設の建設については、計画的、目的意識的に積み立てを行います。

現行のサポートセンターを改組し、「町民活動交流センター」を設立、真に町民活動の推進を担える

機関とします。「センター」は現在の福祉会館に本部をおき、多くの町民ボランティアの参加によって、若者の起業支援、災害支援、文化活動のサポートなど多様な町民活動をサポートします。

住民と行政が共同で町づくりを研究し、実行しつつ、「町づくり基本条例」を策定します。

町民からの政策提言

町政ビジョン 2012 池田町をこんな町に

《ダイジェスト版》

池田町は「町づくりビジョン」を求めている



高齢化や少子化がすすみ、国の政策に翻弄される農林業ばかりでなく、寂しくなる商店街や商工業の現状、町の財政状況の硬直化など不安材料は一杯。誰もがこの町の将来に不安を抱かざるをえなくなっています。にもかかわらず、行政も私たち

町民自身も、これからの町づくりに確たる見通しを持っているとは言い難いのが現状です。

この町を何とかしたい、私たちが安心して過ごせる町、子・孫に誇りをもって残せる町をどうしたらつくれるでしょうか。

池田町の資源を生かし、30年後を見通した政策を



池田町は、北アルプスを眺望する自然に恵まれた田園地帯、里山地帯として、食料やエネルギーの宝庫という財産を持っています。しかし、一方で、過去に建設した公共施設の維持費や自主財源の乏しさ、町民と行政との協働の不足などによって、そ

の可能性を十分には生かし切れていません。いま、子・孫の世代となる約30年先を見通し、池田町の財産を最大限に引き出すビジョンを作り上げるときに来ているのではないのでしょうか。それを成し遂げられるのは町民自身です。

地方自治の主体は地域住民。住民・行政の協力が町づくりの力



町づくりの将来ビジョンを形成する一番のカギは、地方自治の主体である私たち町民自身が話し合い、いろいろな分野から声をあげることです。

これまでは、行政も議会も住民の声に充分耳を傾けられなかったり、要望や意見を行政に反映する

仕組みを作ることができませんでした。

そのため、国や県の言うとおりにしていれば何とか町がまわっていくという「慣例」に流されてきたのではないのでしょうか。これを根本的に転換することがいま求められています。

住んでよかったといえる町づくりへ大きな一歩を



この「町政ビジョン 2012」は、「住んでよかったといえる町づくり」をめざし、町民のみならずとともに考え話し合うための「素材」です。

町の行政や財政の現状を分析し、いろいろな角度からいままでの問題点を洗い出し、今後の展望

を議論し合うことがこれほど必要になっている時期はありません。

次の世代に、安心して住める池田町を託せるように、このリーフレットをもとにして、活発な議論が展開されることを心から期待します。

このリーフレットは、池田町町政研究会が先に発表した冊子「池田町町政ビジョン（付「財政白書」）」のダイジェスト版です。冊子をご希望の方はご連絡ください。1冊実費1000円です。

池田町 町政研究会

【代表】村端 浩 (62-8440) 【事務局】牛越 邦夫 (62-8867) 薄井 孝彦 山本 伸一 山本 久子